

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ

シリーズ/NO 126号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期20年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4000日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

お詫び

10月末から11月中旬にかけて3週間の間に3回もの2泊3日の県外の行政調査やセミナーに参加したため、市内11か所の朝の駅立ちのローテーションが大きく変更せざるをえませんでした。現在随時実行していますので、ご了承下さい。

関東震災から100年後、映画「福田村事件」が描く朝鮮人虐殺問題

今日は9月から全国で上映されている「福田村事件」を観てきた。この映画で描かれている福田村事件は、関東大震災の直後に、福田村（現・千葉県野田市）で、香川県の被差別部落民の行商団15人のうち、9人が地元の自警団に虐殺されたという、実際にあった事件をモデルにしている。

今年は関東大震災から100年目の年だが、朝鮮人の虐殺は、関東一円で何千人もの朝鮮人に限らず台湾や日本人（社会主義者や労働組合活動家を始め訛音や方言等で上手く話せないのを理由に）も殺害されている。

ただ、これを否定しようとする「妄想」にかられてしまっている人や、政府答弁でも歴史的資料が発見されていないとの理由で未だにこ

の虐殺を認めようとしていない。

しかし当時の閣議決定では「流言飛語によって朝鮮人が殺害された」としており、この資料は当然国立国会図書館に所蔵されているにも拘わらず。

国会でこの点を野党議員から追及された内閣官房長官は、国会図書館は独立行政法人であるため政府の直轄の機関ではないという、無茶苦茶な答弁をしている始末だ。

日常的な民族差別や部落差別をはじめとする賤民意識が市民の中に蓄積されている状況では、社会的な危機に対して市民は下から暴走してしまう。

それは国家権力（当時は内務省や軍隊、警察）がそれを先導する役割を担う。そして地域共同体（当時は在郷軍人等の自警団が中心となって）が一気に差別と狂気に走ることになる。

100年も前の事件ではあるが、政府がこの大事件を正式に事実さえも認めようとしないのは、依然として民族差別の反省や意識転換が出来ていない証左でもある。

映画では永山瑛太が好演を見せ「朝鮮人なら殺してもいいのか」（自分達も部落民として差別され続けている被差別者として）と取り囲まれた村人に討たえるシーンは印象的だった。

（この言葉を発したため、最初の犠牲者となるのだ）

また3人の女性の登場人物や虐殺までの前段の不必要な日常風景やストーリーの稚拙さ等映画作品としては相当に批判はあるのだが、一度ぜひ観るのをお勧めする。

（9月5日・火曜日）

市民請願「健康保険証廃止の中止を求める意見書」は自民・公明・維新等の反対で不採択

今日は9月越谷定例市議会の会期中で、私が委員長を務める民生常任委員会が、午前10時から第一委員会室を会場にライブで開催された。

市民から提出された「健康保険証の廃止の中止を国に求める意見書」の審査と採決を行い、この請願は残念ながら不採択となった。

請願者の代表3人の市民による請願趣旨の説明や議員からの質問への答弁が傍聴した多くの市民を前に行われた。

（裏へ）

請願の内容は、「政府はマイナンバーカードの普及を急ぐあまり、取得は任意であるにも拘わらず国民にとって不可欠な「健康保険証」と一体化し、現行の保険証を 2024 年秋には廃止するなど、実質強制化を強行しています。

しかし、マイナ保険証の現況は、誤って他人の医療情報や口座が紐付けられたミスにより誤投薬未遂や公金の誤送金が起きたり、医療機関のカードリーダーで本人確認ができず、一時的に 10 割負担を要求された等の報道が後を絶ちません。

医療関係者の 65%が、窓口の負担増やカードリーダーの維持費の負担増の理由で保険証の廃止に反対、高齢者施設等の 90%以上が、マイナンバーカードでは管理が困難な為、現行の保険証の継続を望んでいます。」としている。

マイナンバーカードは、本人認証が目的であり、保険証は医療機関への証明が目的であり、全く違う性質のものを一体化する意味は殆どない。しかも既に健康保険証は 50 年間にもわたって市民や医療機関で日常化しているもので、然したる不具合は起きてはいないため、請願者の要求には十分妥当性があるのだが。

(9月14日・木曜日)

暫く間が空いた、駅立ちに多くの心配の声が

今朝の駅立ちは越谷駅東口で午前 6 時前から駅前清掃や街宣用具のセッティングの後、市政レポートの配布を始めた。

やっと涼しくなって来たこともあり、ほぼ 1 か月余り中断していた朝の駅立ちをこの日から開始した。今年は連日にわたる猛烈な酷暑と 9 月市議会対応のため、20 年間毎朝取り組んでいる駅立ちを初めて一旦中断していた。

そのためか、何人もの馴染みの市民の方から、暫く会えませんでしたが、お体は大丈夫ですか。何か病気などに罹っていませんか、と心配の声が次々に掛けられた。

また、通常通り冷たいペットボトルの差し入れにも、喉はヒンヤリ、心はポカポカとなった。

その度毎に、事情を説明することに迫られたが、こんなにも多くの市民の皆さんが気にして頂いている現実にあらためて痛感させられた。

この日は、午前 10 時から越谷市議会が主催して 32 名の議員を対象とした救急救命訓練が、市役所の大会議室で開催され市消防署の職



員が、5 班に分かれ全員防災服に身を包んだ議員達を前に AED(自動体外式除細動器)の実践的な講座指導が行われた。私は、10 数年前同じような機会に講習を受けてはいたが、これまで実際の場面に遭遇したことはなく、職員の熱心な話を聞き AED を可動してみてもあたためて手順を確認することが出来た一日となった。

(9月25日・月曜日)

幻の意見書、ついに本会場に上程さえ出来ず

今日は、9 月市議会最終日となったため、朝の駅立ちは中止した。

午前 10 時から本議会が設定されていたものの午前 9 時から議会運営委員会が開催されたため、委員として出席した。

議題は、本年 11 月に開催予定の核兵器廃絶禁止条約締結国会議に、日本がオブザーバーとして参加することを求めた「核兵器の廃絶に向け被爆国として役割を果たす」意見書を議案として上程するかどうかだった。

1 時間 30 分にもわたる協議の結果、私や刷新クラブ、共産党、市民ネットは上程は妥当としたが、自民党、公明党、維新の反対で上程できなかった。広島市と長崎市の両市議会議長名で同意見書を越谷市議会でも政府に対して提出して欲しいとのお願いが事前にきていた。

本年 11 月に第 2 回締結国会議の開催が予定されており、9 月議会に提出しなければ間に合わず、「急至」の事態として、取り扱いを求めたのだが。

世界には米国、ロシアを中心に 12、512 発もの核兵器が存在している。唯一の被爆国である日本は、核廃絶へ向けた指導的な役割を果たすべき位置にあり、この機会を生かすべき絶好のタイミングだ。この意見書への賛否は当然あるだろうが、まず本会議への提出を図り市民に向けたアピールさえ出来なかった事には、反対した議員を説得出来なかった自分の非力さに唇をかみしめた。(9月26日・火曜日)